



アカデミックコンソーシアムとは～都市問題解決に向けた知的ネットワーク～

横浜市立大学は、都市問題の解決を、学術的な立場からサポートするために、2009年CITYNET（アジア太平洋都市間協力ネットワーク）横浜大会への参画を契機に、国際的なアカデミックコンソーシアム（IACSC）を創設しました。主にアジアの都市と都市にある大学、ならびに世界銀行やJICAをはじめとした国際機関等と協働し、都市の抱える課題「環境」「まちづくり」「公衆衛生」などの解決に向け、取り組んでいます。

タマサート大学 2012 / 2017

第3回 持続可能な都市の再構想



横浜市立大学、マレーシア科学大学、フィリピン大学、タマサート大学の学長が出席し、今後のアカデミックコンソーシアム活動において相互に協力し推進することへの合意がなされました。国際シンポジウムの前日には世界銀行と共同セミナーも開催しました。

第8回 長寿時代の持続可能な都市生活における幸福とは



窪田学長が高齢化社会における横浜市の都市健康問題をテーマに基調講演を行いました。まちづくりユニットではバンコク南部の地区を対象にフィールドワークを行い、国際ワークショップには市大生、タマサート大学、マレーシア科学大学、韓国仁川大学の学生計60名が参加しました。

マレーシア科学大学 2011 / 2016

第2回 持続可能な都市の未来をめざして～高等教育機関と地元社会との協働～



国際シンポジウムでは基調講演並びにユニット別にパラレルセッションを行い、総会ではアカデミックコンソーシアムの方向性を明確にした「ベナン・アクションプラン」をまとめ、参加大学間で共有しました。


第7回 豊かな都市生活



窪田学長が横浜市での医療とまちづくりをテーマに基調講演を行いました。JICA草の根技術協力事業の一環として、まちづくりユニットによる国際ワークショップに市大生14名を含む58名が参加。ベナン州セベランブライ市の対象地区を、より魅力的に住みやすくなるための提案を行いました。SUDP（持続可能な都市づくり共通教育プログラム）をマレーシア科学大学と共同開催し、約40名の学生が持続可能な都市作りの観点から環境問題について学び議論しました。


横浜市立大学 2010 / 2015

第1回 持続可能な都市をめざして～大学の新たな役割～

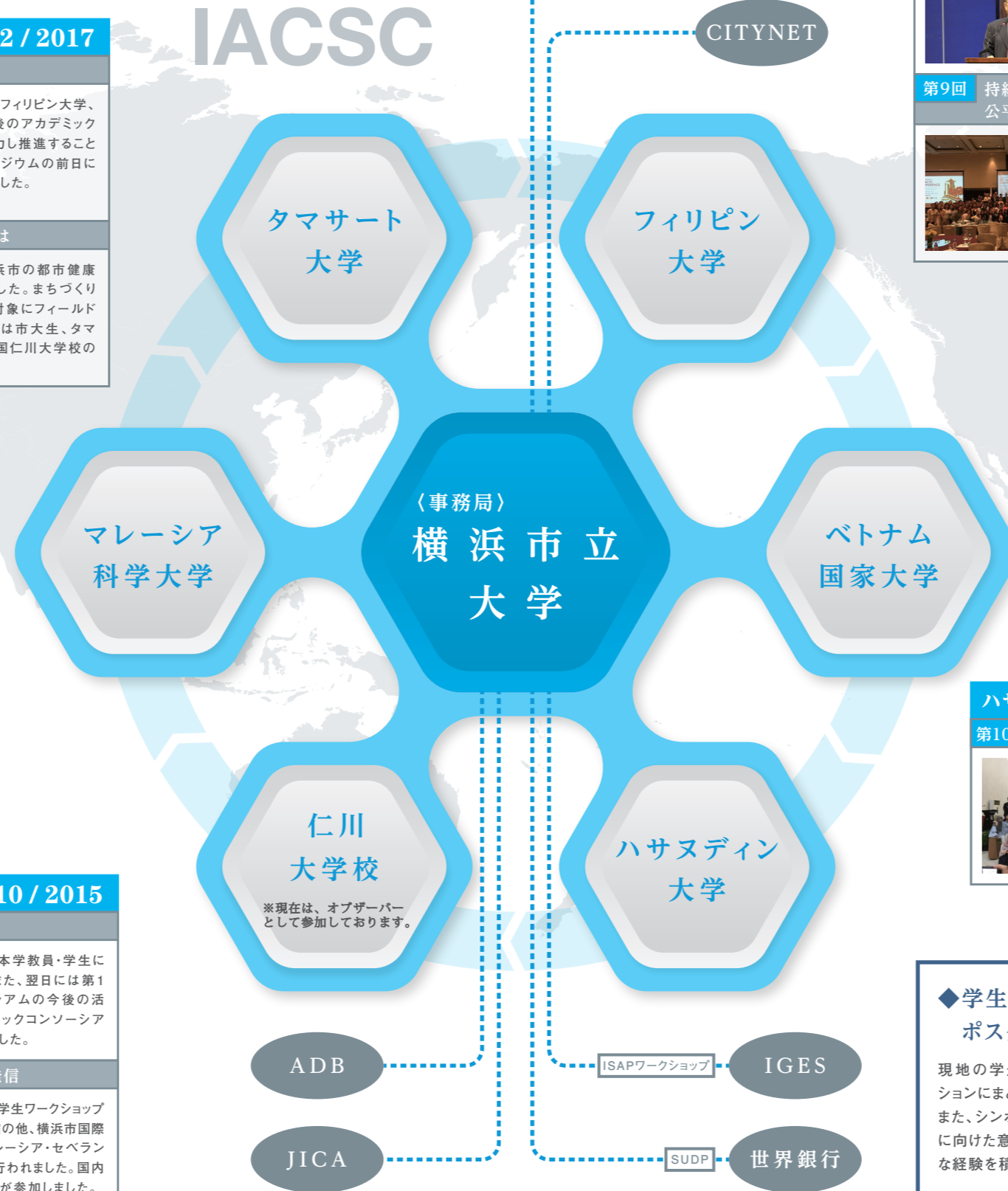


世界銀行・JICAより基調講演、ならびに本学教員・学生によるプレゼンテーションが行われました。また、翌日には第1回総会を開催し、アカデミックコンソーシアムの今後の活動について議論されるとともに、アカデミックコンソーシアム事務局として横浜市立大学が選ばれました。

第6回 持続可能な都市のための地球的連携と地域からの発信



横浜市開港記念会館でシンポジウムと国際学生ワークショップを開催しました。寺島実郎氏による基調講演の他、横浜市国際局長、JICA横浜センター所長によるマレーシア・セベランブライ市のまちづくり支援事業の紹介が行われました。国内外の研究者、学生、一般市民を含め379名が参加しました。



アカデミックコンソーシアム国際シンポジウム・総会開催

アカデミックコンソーシアムでは2010年より毎年、アカデミックコンソーシアム参加大学が持ち回りで総会・国際シンポジウムを開催しており、研究者・学生の交流を進めています。


フィリピン大学 2013 / 2018

第4回 変革する都市、持続可能な回復力のある社会へ



ADB副総裁による基調講演、JICAフィリピン事務所からの講演等、国際機関等の協力を得て、多くの研究者、専門家による持続可能な都市をテーマとした議論が交わされました。

第9回 持続的な発展が主流となっているこの時代の都市環境における公平さと健康



フィリピン大学マニラ校の特色を活かし健康や公衆衛生を中心としたテーマを取り上げ、ADB保健局長やWHO幹部による基調講演が行われました。環境ユニットではADBやオーストラリア連邦科学産業研究機構（CSIRO）と連携し、第2回国際気候変動ワークショップを開催しました。

ベトナム国家大学 2014 / 2020

第5回 持続可能な都市の発展のための機会と課題



第2回開催より続けている学生フィールドワーク、ワークショップの参加者が増加し、学生交流が増えました。また、参加大学がSUDP開講に同意する等、このネットワークを活かした教育研究活動がより拡充しました。


第11回 市民のための都市：理論から実践まで



新型コロナウイルスの影響により、オンライン併用方式で開催されました。本学の相原学長によるオープニングメッセージ、国際教養学部鈴木伸治教授による基調講演の他、閉会式では井村学長補佐による次年度横浜大会の宣言が行われました。

ハサヌディン大学 2019

第10回 都市の多様な資源を活用した強靱な都市づくり



井村学長補佐が基調講演者として登壇しました。分科会では看護学部の学生5名が、前年度に実施したフィリピンでの海外フィールドワークの報告を行いました。まちづくりユニットの学生たちは、マカッサル市長公邸でポスター発表を行い、マカッサル市長、副市長に直接ワークショップの成果を発表する機会を得ました。

◆学生の国際シンポジウムへの参加、ポスターセッションでの発表

現地の学生とのフィールドワークの成果をポスターセッションにまとめ国際シンポジウムで英語で発表しています。また、シンポジウムへも積極的に参加し、都市の課題解決に向けた意見交換をする等、参加した学生は多くの国際的な経験を積んで成長します。



※1 ISAP…持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム

※2 SUDP…世界銀行と連携して開講した持続可能な都市づくり共通教育プログラム

GCI(グローバル都市協力研究センター)のミッション

横浜市立大学(YCU)では、国際機関等の協力を得て、主にアジアの各都市が抱える問題や課題の解決を目指す大学間ネットワーク「アカデミックコンソーシアム(IACSC)」の構築を2009年度から進めています。IACSCの活動では、「環境」「まちづくり」「公衆衛生」の3ユニットを中核に据え、国際シンポジウムの開催・運営、持続可能な都市づくり共通教育プログラム(SUDP)の実施、研究者・学生交流を中心に展開しています。

グローバル都市協力研究センター(GCI)は、IACSCの活動を推進し、大学や都市間連携の強化、国際社会で指導的役割を果たせる「グローバル人材育成」を目的に設立されました。YCUの学生は、IACSCの活動に積極的に参加し、他大学の学生との交流や現地調査にかかわることで国際的な思考力と理解力、行動力や交渉力を身につけることができます。GCIでは、学生が国内や海外のフィールドへ出て、各都市が抱える現状と課題に向き合い、知識と経験を得て実践的に活動できる人材の育成を強力に支援していきます。

IACSC及びGCIのマイルストーン

2009.9	CITYNET 横浜大会で「都市と大学」セッションを開催 市大が参加したラウンドテーブル・ディスカッションで、持続可能な都市社会形成のためのアカデミックコンソーシアム設立に向け意見交換。これにより運営委員会を創設し、実質的なコンソーシアム立ち上げが実現した。
2010.8	第1回アカデミックコンソーシアム総会・国際シンポジウム(横浜市立大学)
2010.10	アカデミックコンソーシアムと世界銀行とのMOU締結 2010年10月、世界銀行とJICAの主催による「Eco2Cities第1回国際会議」を開催し、世界銀行との覚書締結について発表。 Eco2...Ecological Cities as Economic Cities. Ecology(環境)とEconomy(経済)を両立させ環境を破壊せずに経済を発展させ持続可能な都市をつくる世界銀行の都市戦略プログラム。
2011.4	グローバル都市協力研究センター(GCI)設置
2011.7	IGESとのMOU締結(GCI立ち上げイベント開催)、ISAPへの参画 横浜で開催された「第3回持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム(ISAP2011)」において、本学と公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)が、MOUを締結。
2012.8	持続可能な都市づくり共通教育プログラム(SUDP)開講(横浜) 環境に配慮した都市開発やまちづくりの在り方、持続可能な都市開発(sustainable urban development)を主題とする授業。Eco2の概念を中心に世界銀行と共同で開発、実施。
2014.3	世界銀行の都市開発テキスト「ECO2 Cities: 2つのエコが融合する環境経済都市」(公式日本語版)を翻訳・出版 世界銀行の定評ある都市開発のテキストを横浜市大の教員・学生が翻訳し、「Eco2 Cities:2つのエコが融合する環境経済都市」(世銀認定公式日本語版)として翻訳出版。また、持続可能なまちづくり共通教育プログラム(SUDP)の英語版テキストを2015年9月にマレーシア科学大学より出版。
2014.10	スマートシティウィークへの参画、国際ワークショップの開催(横浜) スマートシティウィーク期間に、「持続可能な都市のために統合された都市計画に関するワークショップ～都市間協力のための知識プラットフォームの構築と大学の役割～」を開催。
2015.3	JICA草の根技術協力事業「フィリピン国イロイロ市コミュニティ防災推進事業フェーズ2」開始
2015.12	JICA草の根技術協力事業「マレーシア国ペナン州セベランプライ市における歴史・自然を活かしたまちづくりプロジェクト」開始
2016.10	Yokohama Urban Solutions Study(YUSS)開講(横浜市立大学)
2016.12	アジア太平洋都市間協力ネットワーク(CITYNET)に加入
2019.3	アカデミックコンソーシアムに、韓国・仁川大学校が正式加盟

IACSCのネットワークを活かした国際教育プログラム・学生活動

都市の課題解決を通じて、多くの海外研究者や学生と交流することで、海外で活躍できるグローバル人材の育成に寄与するため、IACSCのネットワークを活かした国際教育プログラムの開発や学生活動の推進を行っています。

SUDP

SUDPは、環境に配慮した都市開発やまちづくりの在り方、持続可能な都市開発(sustainable urban development)を主題とする2012年に横浜市大で開講された授業です。これは、世界銀行と市大が共同で開発したプログラムで、世銀が2010年に発表した「ECO2:Ecological Cities as Economic Cities」という都市計画の包括的な概念をベースに構築されました。経済活動と環境配慮をどう両立させるかというテーマが中心です。2013年には、プログラムの海外展開の第一歩として、マレーシア科学大学がSUDPを開講し、同大学の出版部よりSUDPに特化したオリジナルの英文テキストを出版しました。以後、アカデミックコンソーシアムのネットワークを活かし、ベトナム国家大学、タマサート大学(タイ)、フィリピン大学、ハサヌディン大学(インドネシア)での実施を経て、2020年からは、再び横浜での受入プログラムとして展開しています※。
※2020年は、コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催。



YUSS

YUSSは、横浜市と連携し2016年より実施されている海外大学院生の受入れプログラムです。アカデミックコンソーシアム加盟校や海外協定校等より、明確な研究テーマを持ち横浜市の都市政策を学びたい大学院生を8週間受け入れ、講義だけでなく、横浜市水道局(道志村)、交通局、資源循環局等の部局や民間企業訪問などのフィールドトリップを行います。国際都市ヨコハマがこれまでに経験してきた都市開発やまちづくりのノウハウ、都市課題克服の過程を学ぶことで、帰国後も自国での研究活動に役立てています。YUSS修了生は、横浜で学んだ成果を母国での学位論文に反映し、将来は母校での講師等として授業や研究活動に役立てる狙いがあります。2020年までに修了生は20名以上となり、同窓会を開催したり、各国で開催されるSUDPの講師やファシリテーターを務めるなど、その強固な修了生ネットワークが市大にとっても、貴重な財産となっています。



海外フィールドワーク

海外フィールドワークでは、毎年、アカデミックコンソーシアムの総会・国際シンポジウム開催国の現地の学生と約1週間程度、行動を共にしフィールドワークを行ったり、国際ワークショップを開催しています。海外の学生と都市課題について議論し、意見をまとめる過程で、国際的な思考力や理解力、行動力、交渉力を身につけます。また、国際シンポジウムでのポスタープレゼンテーションや分科会での口頭発表を通じ、来場者に英語で積極的に活動内容を説明する等、英語での成果発表を実践する良い機会となっています。



アカデミックコンソーシアムを活かした研究活動

国際共同研究による都市等への支援 ⇒ 都市への支援プログラムの具体化

グローバル都市協力研究センターは、「都市間連携をアジアの大学と共同で支援する」という観点から各ユニットにおいて具体的な現場での活動を推進しています。

環境ユニット

アジアにおける気候変動対策に関する研究

- ・6カ国に渡る研究体制
- ・IACSCメンバー大学との連携
- ・出版計画(英文)

本研究は、日本、オーストラリア、ベトナム、フィリピン、マレーシア、インドネシアを研究対象として、気候変動が私たちの生活や生態系等に与える影響を軽減し、よりレジリエントな都市環境を構築していくための方策を検討・提案することを目的としています。具体的には、各国の温室効果ガス排出量および将来の目標値の設定状況を調査し、各対象地域の排出量の算出方法について整理・比較します。また、各国が気候変動に対して具体的にどのような対策を計画・実施しているのかを調査し、政策の策定と実施状況並びに課題等に関する詳細な分析・検証を行います。



ペナン川の住民参加型流域管理の実現を目指して ～鶴見川の事例を基に～

- ・日本の鶴見川とマレーシアのペナン川との比較研究
- ・マレーシア科学大学の研究者らとの共同研究
- ・住民参加型の流域管理モデル

本研究は、環境汚染が深刻化しているマレーシアのペナン川(The Pinang River)を研究対象として、河川の自然環境の保全・復元を図るために、住民参加型手法を取り入れた流域管理モデルの構築を目的としています。具体的には、住民、行政とNGOといった多様なステークホルダーの参加によって、河川環境の改善を図った日本の鶴見川の流域管理を先行事例として、ペナン川の流域管理と比較しながら、適切な住民参加型の流域管理のあり方を提案します。



まちづくりユニット

都市づくりに関する政策・制度の国際比較研究

- ・韓国、台湾、日本の3カ国比較
- ・仁川大学校をはじめとする韓国、台湾の大学研究者との交流
- ・都市の持続的な発展の実現

低成長・人口減少時代に入り、都市づくりの政策・制度の転換が求められていることを踏まえ、日本・韓国・台湾の都市づくり関連制度に関する国際的な比較研究を行っています。特に、都市再生戦略、都市計画の体系と土地利用コントロール制度、地域の固有性を活かした都市環境形成などに着目し、現地の大学研究者や自治体職員の方々と意見交換しながら、良好で持続的な都市環境形成に資する政策・制度のあり方を検討しています。



都市計画・まちづくりに関する研究交流

- ・各国、各都市の都市計画・まちづくりの最新動向についての情報共有
- ・アカデミック・プログラムへの相互参画
- ・研究ネットワークの構築・拡充

IACSCメンバー校の研究者間では、各国、各都市の都市政策や都市計画の最新動向や各々が携わる都市計画やまちづくりのプロジェクト等について、情報共有や研究交流を行っています。それぞれの大学が主催するアカデミック・プログラムへの相互参画の機会もあり、シンポジウムへの講演者としての招聘や、客員教員としての招聘などが行われています。



公衆衛生ユニット

非感染性疾患(NCDs)予防教育プログラムの開発 ポストCOVID19時代における持続可能な医療制度

- ・ハサヌディン大学研究者らとの共同研究
- ・フィリピンイロイロ市における母子保健対策支援
- ・IACSCメンバー間との情報共有、対策検討

ハサヌディン大学看護学部とNCDs予防教育プログラムの開発に向け、大学生におけるNCDs予防のための健康行動調査を進めているとともに、フィリピンイロイロ市において、看護学生と共に母子保健対策教育や支援を行っている。また、ポストCOVID19時代における持続可能な医療制度をテーマとした情報共有や医療制度ユーザーとしての意識調査、対策検討などを計画している。



◆ JSTさくらサイエンスプランによる国際交流活動実績

年	実施ユニット	相手校(国)	交流テーマ
2015年9月	まちづくり	ベトナム国家大学、マレーシア科学大学	アジアにおける都市再生
2016年2月	公衆衛生	フィリピン大学マニラ校	高齢化と健康:高齢化社会と看護
2016年9月	まちづくり	クオパ工科大学(ネパール)	震災からの都市復興
2017年1月	公衆衛生	フィリピン大学マニラ校	健康と看護:日本・フィリピンにおける母子保健と看護の役割
2017年11月	まちづくり	クオパ工科大学(ネパール)	震災からの都市復興
2018年1月	まちづくり	タマサート大学(タイ)	持続可能な社会を支える都市計画の技術と取組みを学ぶ
2018年1月	公衆衛生	フィリピン大学マニラ校	災害医療と看護:日本・フィリピンにおける災害医療と看護の役割
2019年1月	まちづくり	仁川大学校(韓国)	少子高齢化・人口減少時代の都市計画技術を学ぶ
2019年1月	公衆衛生	フィリピン大学マニラ校	感染対策と看護:日本・フィリピンにおける感染対策と看護の役割
2020年1月	まちづくり	ハサヌディン大学(インドネシア)	持続的な都市発展と良好な都市環境形成のための計画技術を学ぶ
2020年1月	公衆衛生	フィリピン大学マニラ校	日本・フィリピンにおける医療安全管理と看護の役割

グローバル都市協力研究センターでは、毎年、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」の支援をうけ、IACSC加盟大学を含む海外の大学から学生と教員を招へいし、国際交流を行っています。

海外学生に対し、横浜近郊で行われる講義やフィールドワーク等を通じて、日本での実践的な学びの機会を提供しています。また、日本人学生にとっても、交流テーマにある共通の課題に対して、グループワーク等の共修を通じ、各国の違いや共通点をそれぞれに学ぶことが出来る絶好の機会となっております。

